Sanriku-geopark
さんりくジオだより
第 66 号
R2年12月～R3年１月合併号
三陸ジオパーク推進協議会

【地球の恵み】 三陸の温泉&鉱泉

三陸ジオパークのエリアにある　鉱泉

岩手県山田町嶋田鉱泉の源泉を訪ねました

大正5年発見の金鉱山の坑道内に湧く鉱泉。
豊間根の「千恵の湯っこ」と言われ、薪で沸かしているため　湯が冷めにくい。　沿岸有数の熱い沸かし湯です。

北東北の湯治場には金勢様が祀られていることが多く嶋田鉱泉にもお社が近くにあります。

坑道内の地下から湧き出す鉱泉を湯治場まで引いています。
冬眠中のコウモリに会えました。

～温泉と鉱泉の関係～

日本には数多くの温泉地があります。その土地により温泉の成分も温度も異なります。
火山活動のある地域から離れたところにある三陸ですがここでも温泉・鉱泉が湧出している場所があります。
「鉱泉は温度が低い温泉」と思われがちなことから、温泉と鉱泉の微妙な違いを調べてみました！

鉱泉とは、地中から湧出する温水および鉱水の泉水で、多量の固形物質、またはガス状物質、もしくは特殊な物質を含むか、あるいは泉温（＝鉱泉が，地上に湧出したときの温度、または採取したときの温度のこと）が、源泉周囲の年平均気温より常に著しく高いものをいう。
温泉は、昭和23年に制定された「温泉法」により、鉱泉の他、地中より湧出する水蒸気およびその他のガス（炭化水素を主成分とする天然ガスを除く）を包含する定義である。

＝泉温による分類＝

- 鉱泉
  - 冷鉱泉 25 ℃未満
  - 温泉
    - 低温泉 25 ℃以上 34 ℃未満
    - 温 泉 34 ℃以上 42 ℃未満
    - 高温泉 42 ℃以上

（環境省HPより）

《岩手県沿岸の温泉地》

https://iwatetabi.jp/spa/engan.spn.php
（岩手県HPより）

《山田の金山伝説》

山田・宮古の鉱泉は多くが金に関係する

北上山地は冷泉・鉱泉が豊富

特に山田・宮古には古くからの鉱泉が多数存在し、その多くが金に関係しているそうです。それぞれの地域に「金」にまつわる伝説や言い伝えがいくつも残っています。

嶋田鉱泉：金・銀・銅の採掘跡
光山温泉：金・ラジウム鉱採掘跡
安庭山荘：砂金
ひきめ乃湯：金の露天堀跡

北上山地の金
↑主に熱水性石英脈に由来
↑花崗岩と熱水作用からできる
↑北上山地に多い

長い年月の間に地上に露出した金鉱脈から金が分離して河川に流れ込み、砂金として堆積する

《宮古・山田周辺の地質図》

ピンク色の部分が花崗岩（いわゆるみかげ石のこと）宮古の花崗岩体は遠野に次いで大きい

三陸ジオパーク・現地推進員が記者となってお伝えするコーナー①

毎回いろいろな情報をお伝えいたしますので、どうぞお楽しみに！（今回の記者：菊池 啓／釜石配置）

ジオサイトを巡る旅　～気仙黄金ロマンと唐桑半島の奇岩探検～

と題したジオツアーが、令和2年12月11日（火）に陸前高田市～宮城県気仙沼市にて開催され、これに事務局として参加してまいりましたので、その様子をレポートいたします。

（・主催：岩手県沿岸広域振興局
・共催：三陸ジオパーク推進協議会、三陸ジオパーク南部ブロック会議）

今回のジオツアーの開催は、三陸ジオパーク認定ガイドの拡大、認定ガイドの活躍によるジオ活動の活性化を目的としたもので、認定ガイドを目指している方々、ジオ関係者、一般の方（遠くは仙台市からのご参加）と総勢17名によるツアーとなりました。

青い空、真新しいホールとバス

玉山金山跡ではガイドポイントまで黙々と登るケースも（笑）

また、コロナ禍における開催ということで、感染拡大防止対策のため、事前の体調把握、当日のマスク着用、手指消毒、検温の基本的対策に加え、観光バスの乗車時にも2人掛け座席を1人掛け利用（定員の50%）とする対策を講じました。

さて、当日は朝8時50分に陸前高田市民文化会館「奇跡の一本松ホール」駐車場に集合し、ツアーがスタート！

「玉の湯」さん前でパシャッ！

「リアスキッチン」さんの海鮮丼（1,500円）

玉山金山跡に向けて出発したバスの中では、主催者挨拶に続いて、紺野文彰さん（認定ガイド）により、玉山金山はどんな場所なのか、どんな歴史があるのかなど、玉山金山に関する導入部分について、資料を用いながらご説明がありました。

玉山金山跡に到着、なんと地権者である竹駒町牧野採草地農業協同組合の及川賢治さんが待機していてくださいました。
現地では、山を登りながら歴史や文化に精通している紺野さんと、地域資源に誇りを持ちたいと玉山金山を始めとした気仙地域の金にまつわる歴史や文化などを独自に勉強なさり、他地域で講演することもあるという及川さんのWガイド(？)となり、ご参加の皆様は熱心に耳を傾けていました。

唐桑半島で駐車場から「御崎」に向かう御一行

「八隻曳」は千畳敷とも呼ばれています

その後、気仙沼市に移動、到着する頃にはお昼どきになっており、海の市「リアスキッチン」さんで海鮮丼をいただきました。引き続き、食事を終わった方からお買い物タイム、わたしは見るからに美味しそうな「水ダコの頭（1千円）」がかなり気になったのですが、10人前くらいはありそうな大きさで、誰が食べるの？と断念（泣）

「折石」は明治の大地震で先端が２ｍ程折れたとのこと

「折石」前の展望所でパシャリッ！

唐桑半島に到着後、ガイド役は菅野弘明さん（認定ガイド）にバトンタッチ、御崎、巨釜・折石とご案内いただきました。菅野さんは、フリップを用いながらご参加の方々への投げ掛けやクイズを出すなど、お客様を飽きさせないような工夫を感じるガイド内容でした。また、菅野さんは、手作りの「流木ボールペン」をご参加の皆様へのお土産として人数分ご用意、「夜ナベして作りましたよ（笑）」とお話していたのが、印象に残っています。

講師を務めていただいた福濱さんは香川県出身で趣味は登山とのこと

皆様メモを取りながら受講

さて、バスは出発場所である「奇跡の一本松ホール」に戻ります。最後は、環境省自然保護官の福濱有喜子さんを講師とする講座「環境関連法とみちのく潮風トレイルの利活用」の受講。自然保護の観点からガイドが押さえておきたい法に基づく注意事項や「みちのく潮風トレイル」と「三陸ジオパーク」の連携による取組みなど、今後のガイド活動の参考となる内容であったと思います。

終了時の皆様の表情から、成功であったと確信したわたくしでした！

ホットな情報は
Facebook　&　twitter
でも！

facebookはこちら！　Twitterはこちら！

2021年2月21日開催
フォトロゲイニング　三陸シリーズ
冬の三陸ジオパークアドベンチャー　in　宮古

昨年11月8日に普代村で開催された前大会では、県内外から参加者が多数あり　各チームごとに普代のまちを楽しく回りました。
今回は宮古市内での開催です！
フォトロゲイニングとは、「地図をもとに、時間内にチェックポイントの得点を集めるスポーツ」です。
上位を目指すみなさんは、より高得点が設定されていることの多い遠くのチェックポイントを数多く制覇するため走って回りますが、歩いて行けるところもたくさんありますので　ウォークラリーのように大人も子供もスポーツの苦手な人も　それぞれに楽しめます。
事前エントリー制で　2月1日まで申込受付中です。チームを組んで下記専用サイトからどうぞ。　たくさんのご応募をお待ちしております！

公式HPは　こちら　（エントリーページに進みます）
→　https://sanriku-project.jp/event/article.php?p=118

大会に関するお問い合わせは　下記までご連絡下さい。
岩手県沿岸広域振興局経営企画部産業振興室
TEL :0193-25-2718　　FAX :0193-23-3472

＋＠おたのしみ企画　ちょっと寄り道「ジオさんぽ」

フォトロゲ宮古大会の前日に　宮古のまち歩きをしませんか？

＜開催日時＞　令和3年2月20日(土)13:00～16:00　コースにより2～3時間程度
＜集合場所＞　宮古駅前(出発･到着)　受付開始12:45／少雨決行、荒天中止

＜内容＞　ジオパークを含めた宮古市内をまち歩き案内する「ジオさんぽ」
A:三鉄に乗って　　震災から10年･防災のまち田老の自然と今昔を巡るコース
B:バスに乗って　　崎山貝塚縄文の森ミュージアムで見学と縄文弓矢体験コース
C: まち歩きで　　宮古駅から旧市役所方面の再発見と竹輪の手作り体験コース
＊もれなくガイド解説＆おみやげ付き＊　　申込時に上記A～Cの3コースから1つ選択

＜参加費＞　無料　＊コースにより交通費･入館料･体験料は各自でお支払いいただきます
自己負担:一人800～920円　程度　（保険は主催者で加入）

＜対象者＞　　一般参加者（市内近隣･県内外　フォトロゲ参加によらずどなたでも）
＊小学生以下は　保護者同伴での参加
＊各コース10名程度　　最少催行人数2名

フォトロゲ大会公式HPに専用サイトをリンク
https://sanriku-project.jp/event/article.php?p=135
↳(三陸防災復興プロジェクト　イベントページ)

＜申込＞　令和3年1月8日(金)～2月10日(水)
･メール　info@sanriku-geo.com
･専用受付フォーム　にて　　→→→
https://forms.gle/6tSpbw5oTKYm1DZx8

＜主催＞　三陸ジオパーク推進協議会
【担当】事務局　阿部　智子
お問合せ　☎　0193-64-1230

三陸ジオパーク・現地推進員が記者となってお伝えするコーナー②

毎回いろいろな情報を掲載いたしますので、どうぞお楽しみに！（今回の記者：田高・町田／久慈配置）

金ヶ沢砂鉄採掘場跡

金ヶ沢砂鉄採掘場跡の砂鉄層

今回は県北地域、洋野町にあるジオサイト「川崎製鉄金ヶ沢砂鉄採掘場跡」をご紹介します。

北上山地では、砂鉄から鉄を作るたたら製鉄が古代から行われてきました。
その中で久慈地域はたたら製鉄が最も盛んな地域で、この歴史を語るのに欠かせないジオサイトが洋野町の「川崎製鉄金ヶ沢砂鉄採掘場跡」です。

この採掘場で採掘された砂鉄は、久慈市で昭和時代に操業していた川崎製鉄久慈工場で使用され、国内で唯一、砂鉄から鉄を製錬していました。

この砂鉄は海成段丘上の砂鉄で「ドバ」といいます。今から数十万年前にかつて海だった時代に海底に堆積した砂鉄が大地の隆起により高台に持ち上げられたものです。
主要な鉱床(こうしょう)は久慈市から洋野町にかけて、標高約250m付近に分布します。

この砂鉄層は現在でも大野運動場脇の斜面で見ることができます。

久慈市情報交流センター「YOMUNOSU（ヨムノス）」でVR映像体験や屋上ガイドを実施！

今年3月に久慈駅南側にできた、図書館と観光施設が一体となった新しい観光スポット「ヨムノス」で三陸ジオパークのPRイベントが実施されました。
このイベントは、北三陸認定ジオガイドクラブが主催となって、地域の人たちに三陸ジオパークの魅力を伝えたり、ヨムノス屋上からの周辺景観やその成り立ちについて　解説を行いました。
線路を挟んで久慈駅の東側周辺は、以前川崎製鉄久慈工場があった場所で、今の久慈市「川崎町」という地名の由来にもなっているということです。

＊「YOMUNOSU」とは一般公募で決定された施設の愛称で「読むのです」と「読むの巣」の意味が込められています。

「YOMUNOSU」のHPはこちら
https://www.kuji-kankou.com/yomunosu

編集後記：
地方に住んでいると　移動手段として車と運転免許は必須です。　免許を取っとおいて良かった～と思う場面がしばしばありましたが、歩いてちょっとそこまでの距離でも車に乗る生活を送っていると当然運動不足になりがちです。ましてや まちなかを散歩して歩くことなんて滅多にないです。が！これが意外な発見になって　楽しいことに気づきました！地元の人が当たり前になっていることは、初めて聞く人にとってはとても新鮮だったり、地元でも知らなかったことに出会ったり♪　まち歩きがマイブームです。　～と～

三陸ジオパーク推進協議会
〒027-0072
岩手県宮古市五月町1－20
（宮古地区合同庁舎2階）
TEL:0193-64-1230
FAX:0193-64-1234
info@sanriku-geo.com
http://sanriku-geo.com/